

稲門政経会発足にあたって、会員みなさまへ

本日は稲門政経会第 1 回総会・懇親会にご出席賜り誠にありがとうございます。本会は、平成 17 年に発足した「早稲田大学政経会」を前身組織としております。「早稲田大学政経会」は、堀口健治副総長を中心に、政治経済学部出身の財界トップ有志の皆様のご尽力により発足、これまで数多くの活動を展開してこられました。当会の存在と実績があったからこそ、新生「稲門政経会」の発足がかなったのだということ、日々実感しながら準備を進めてまいりました。発足当初の諸先輩のご苦勞、ご尽力、そして、これまでの各種活動展開に深く敬意を表すると共に、改めて深く感謝申し上げる次第です。

新生「稲門政経会」は、以下の基本方針の下に、今後会員各位の皆様方と共に活動を展開してまいる所存です。

1. 「和して同ぜず」の精神で。

「そもそも早稲田大学卒業生に、ここまで大掛かりな同窓会は馴染むのか？」という声も、当初はありました。元来早稲田出身者の皆様は、「群れないこと」や「在野精神」を美学とするところがあり、こうした同窓会組織に抵抗感をお持ちの方も少なくないかと存じます。今回、本会を立ち上げるにあたって最も意識した点は、このような早稲田卒業生の特性があってもなお、参加意欲をかきたてられるような魅力のある会にしていきたい、という点です。単に郷愁にかられて集まることだけを目的とはせず、会員のつながりの中から新しい価値を創り出す仕掛けを展開していきたいと考えています。「和して同ぜず」の精神で是非ご参加ください。

2. 政治経済学術院公認の同窓会として、真の産学連携を目指します。

本会は、同窓会組織としては初めての、政治経済学術院公認の同窓会となっています。飯島昇蔵学術院長のご尽力により、昨年 12 月に、正式に学術院教授会公認の同窓会組織として位置づけられました。産学が密接に連携することで、社会的に中立的な立場で、純粋に世の中に向けた様々な問題提起や各種の提言、さらには新しい試みの実践が行えることも本会の特徴であり、それは早稲田大学政治経済学部および大学院を卒業した我々だからこそチャレンジできるものでもある、と考えます。政治経済学術院と本会が連携を強化し、真の産学連携同窓会として、単なる卒業生の親睦会を超えた「社会のオピニオンリーダーのひとつ」となることを目指します。

3. 「寄付金集めのピークル」に自らを位置づけません。

本会は、政治経済学部および大学院卒業生、および政治経済学術院教職員すべての人が入会資格を持っていますが、会費獲得を目指したいたずらな会員数増大を目指すことはいたしません。本会の趣旨に賛同いただき、共に活動展開にご協力いただける方々の力で、地道に

一步一步発展させてまいりたいと考えております。ちなみに本日現在の登録会員数は、約 500 名、総会出席者は、約 350 名予定です。

4. 世代の幅を「生かした」活動プログラムを展開します。

前身組織の「早稲田大学政経会」が、世代の近い財界人の方々を中心とした集まりであったのに対し、本会の会員構成は、昭和 30 年代ご卒業の大先輩から、この春卒業されたばかりのフレッシュマンまで、およそ 50 年にわたる年齢幅に展開されています。当然ながら、世代間での目的意識や価値観に違いもあることと思います。しかし、これは見方を変えれば、多様性が創り出す無限のパワーを本会が擁していることにほかならない、とも言えるでしょう。従って、その大いなる可能性を追求していくためにも、全会員をまたぐ大型プログラムだけではなく、世代別、目的別に様々な分科会活動や企画を準備していこうと考えています。世代単位で昔を懐かしむ同窓の集まる場は当然のこと、大学との交流の場、現職のビジネスに生かすための人脈づくりの場、或いは趣味、特技を通じた集いの場、さらには大学とのコラボレーションによる新しい事業の立ち上げの場となってもよいと考えています。世代ごとの活動と、世代を超えた交流の場の、両方を意識したプログラムを通じ、会員の皆様一人ひとりが参加意識をもって、活動できる場を作っていきたいと思っております。

5. オンネットによる情報受発信を通じ、国や地域を超えた同窓会を目指します。

国内の各地方及び海外在住の卒業生の皆様からも入会のご希望を頂いております。現時点では、こうした総会や懇親会が東京で開催される限り、参加いただくことは困難ですので、今後ネット上で様々な活動を展開できるような環境を構築してまいりたいと考えています。まずは出来るだけ早く、種々の講座やイベントのコンテンツを WEB サイト上で提供できるようにしていく所存です。次のステップでは、双方向イベントや、その他さまざまな分科会活動を、ネットを通じて行えるように対応していきたいと考えています。時差の少ない東アジアやオセアニアであれば、かなり現実的な企画になるのではないかと想定しています。

6. 財源の多様化を目指します。

国内他大学も含め、一般的な大学同窓会組織は、会費＋寄付金＋一部のボランティア活動で運営をまかなうという図式が成り立っています。本会は現在黎明期であり、当面は同様のアプローチを否定することはできませんが、将来的には、本会自体で収益事業を営むことにより、得られた果実を運営財源の一部に充当する仕組みを検討してまいりたいと考えています。当初のハードルは高いかもしれませんが、中長期的にみれば、本会会員、政治経済学術院側双方にとって非常に意義のあることであろうと考えます。無論、収益事業を営むということはリスクを伴うことですから、将来は本会を NPO 法人化させ、正規の執行体制と意志決定プロセスを整備する必要があることは言うまでもありません。容易なことではないことは重々承知の上ではありますが、長期的な視野に含めることとし、会員皆様からのご意見や、ご提案を承り、議論の

ひとつとさせていただければ幸いです。

続きまして以下、本会運営を上記の方針で推進していくにあたり、みなさまへのお願いです。

■ 政治経済学術院関係者の皆様へ

今後政治経済学術院と本会との間では、様々な連携が考えられます。従来の枠にとらわれることなく、これまでになかった新しい卒業生組織として、本会を有効に活用していただきたいと思えます。産学間の各種考え方の相違もあるとは思いますが、大切なことは、目的を共にし、前向きかつ斬新な取り組みを続けていけることだと考えております。そのための建設的な議論や活動の継続こそが、本会の発展のみならず、政治経済学術院と社会との接点を深めることに繋がり、教育、研究機関としてのさらなる進化のきっかけとなって、結果として「早稲田の政経」ブランド価値の増幅に繋がるものと信じております。

■ 諸先輩の皆様へ

今回新たに会員募集活動をして参りました中で、中堅～若手世代の声で最も多かったのが、稲門政経会諸先輩による「経営塾」の開催希望でした。現職のトップマネジメントの皆様、並びに引退された大先輩の皆様方には、是非継続的に本会の後輩のために、「経営塾」の塾長として講座を開設いただきたくお願い申し上げます。既にご快諾いただいた諸先輩による経営塾セミナーのご案内が同封されております。今後事務局からも、塾の開催を改めてお願いさせていただくこともあるかと思いますが、その際には何とぞよろしくお願い申し上げます。諸先輩のご経験や、見識を後輩のためにお伝えいただき、明日の日本、そして世界に向けて貢献していかなければならない世代の成長のために、一肌脱いでいただければ幸いです。

■ 中堅～若手会員の皆様へ

稲門政経会の事務局は、活動のための様々な「場」と「アイデア」を提供してまいります。前述の教育・研修的なものから、余暇レジャー的なものまで幅広くきっかけづくりに努力したいと考えています。ただ、それらを有効なものにできるかどうかは、みなさんの参画意識次第であるという面もあります。様々なメンバーで立体的なプログラムを企画開催していくには、みなさん一人ひとりの参画が大切です。「仕事で忙しくてそんな暇はない。」という方や、「すでに地域活動等で時間をとられているので。」といった方がほとんどかもしれませんが、共に早稲田の政治経済学部および大学院で学んだ仲間として、是非「ゲマインシャフト的共同体に参画する意識」で積極的に仲間を作ってください。諸先輩、後輩といろいろな話をするのはもちろんのこと、互いに挨拶するだけでも意義はあります。そして意見があればどんどん発信してください。アイデアがあれば持ち込んでください。自ら企画したければ、ぜひ手をあげてください。決して安くはない年会費を払って参加しているのですから、ぜひとも、本会および本会で培う人的ネットワークの中で、自らの存在感を発揮できる機会を見つけてほしいと思っています。

家族・地域社会・企業(団体)とは異なる、「同窓」という場で、全く新しい自己のアイデンティティを確認できるかもしれません。

結びに

稲門政経会が、従来の同窓会機能を備えつつ斬新なスタイルと思想を擁する組織として発展し、皆様方の積極的かつ継続的な参加をいただけることを、切に願っております。

本会が成長し、社会の様々な分野で、日本や世界に対して有用な情報発信のできる「オピニオンリーダー」になれば、最高です。さらに「政治経済学術院と卒業生が一体となった各種の活動を、同窓会の収益事業を主な財源として運営していく」ことを将来的に実現できたら、まったく新しいタイプの同窓会として、活動展開の自由度が増すことは間違いありません。もしかしたら、収益事業の中から産学連携のベンチャー的なビジネスが生まれるかもしれません。これこそ真の産学連携です。

親睦団体としての同窓会活動と考えるならば、やや先鋭的な部分もあろうかと思いますが、こうした志を持って皆様と議論し、行動していくことが、「早稲田の精神」でもあり、従来の考え方にとらわれない「進取の精神」ではないかと思っております。

会員各位の主体的な活動の場として、稲門政経会をぜひご活用ください。それが本会のさらなる飛躍、発展に直結することになり、政治経済学術院にも大きく貢献することになります。「現世を忘れぬ久遠の理想」を追求し、「われらが行く手は窮まり知らず」の精神で臨みたいと考えております。

会員の皆様方より積極的なご提言、ご参加を、事務局一同心よりお待ちしております。

2009年5月14日
稲門政経会 事務局
事務局長 北原義一